# 16［評論］『万葉仮名でよむ「万葉集」』

［１］　文字ができて以降の我々は、言葉というものを、単語であるとかであるとか、これは名詞、これは動詞などと、品詞に分けて考えているけれども、実際には、それらは相互に溶け込んだ声から成り立っている。声というのは、発声する力。力の強弱の具合によって、当然母音があり子音があり、とされている構造も変わっていく。声とはそういう発語する力のことであり、その力の具合から成り立っている。だからその力が、体の動きになってみたり、あるいは一定の韻律できちんとした声になっていく。①無文字の言葉は実際に文字ができてからの言葉とは、全く違うａエタイの知れないものだ、と考える方が正しい。

［２］　例えば、がアイヌの集落に入り込んでいってアイヌの言葉を聞き取り、書き留めたと言うが、そこには②重大な問題が横たわっている。それは意識しているか否かにかかわらず、取材する方に染みついている、「あいうえお」の文字に根拠づけられた音節単位で声をつかまえにいくことである。ある声を「あ」と言っているのか、「は」と言っているのか、「か」と言っているのか、と聞き取ろうとする。（中略）

［３］　プロのうまい歌手は、その声のかなり細かい単位まで自覚し、ｂセイギョしつつ発声できる。我々は「あ」と、棒か丸太のようにひとかたまりで発声するが、微細音をきれいに組み合わせて、「あ」という音に聞こえるように出すのである。発声もまた力に他ならない。したがって、無文字時代の言葉は、声だけ取り出してきても単語を単位とするというものではない。アイヌの言葉や歌謡もどこで切ったらいいか、ほんとうは分からないのに、文字を持つ側が自分たちの言葉のようなものだろうときめつけて、結局今のような形に落ち着かせた。そして、いったん書き留められると、アイヌ語を使う人も③それに合わせて自覚的にみんながしゃべり始め、現在信じられているようなアイヌ語ができたのである。

［４］　無文字時代の表現は、声が最先兵として非常に突出したものだが、それがすべてではなく、身振りなども合わせて成立していた。今でも「いいですよ」と言う代わりに、頭を下げてけば、両者は同じ意味を示す。無文字の言葉や歌謡というものがあるにせよ、パッと聞いてパッと写し取れるようなものではない。それはある場面である種の動作をｃトモナっていて、それと共にしか表出されない。動いている体がなにがしかのことを言っていたり、声のイントネーションがこの体の動きの中に溶けてしまっていたりもする。このようにいろいろな身振りや手振りと溶け合い、その総体として無文字時代の言葉はある。それが無文字の時代の言葉だというリアリティを持つと、無文字の時代の文化というものもかなり見えてくる。

［５］　したがって、前もっての歌が存在していて、それを漢字を使って写し取ったものが初期の万葉の歌だということにはならない。はっきりと漢字で固定できない表記は、まあこんな表現でしかたないという形に［　　　　　］を加えて文字化をしていく。つまり、口承文学と言ったところで、もともとの歌というよりも、あくまで書くことを通じて作られた歌であるというふうに言っていいし、④言葉というのはそういうものだと考えればいい。

［６］　Ⅰ書くことによって新しい語彙が整理されまた新たに生まれてくる。Ⅱいかにしてできてくるか。Ⅲいろいろな言葉が弧島にはあったに違いない、漢語＝漢字が入り込んでくると、この漢語＝漢字に対応する形で弧島の言葉が選ばれ、そしてこれが書き留められることによってｄケンイづけられ、確定された言葉としてｅテイチャクしていく。Ⅳやがてその言葉が口語の中に還流して入っていくという構造にある。

●語注

弧島＝日本列島のこと。

■覚えておきたい語句

□２相互……………………互いに働きかけがあること。おたがい。

□11セイギョ……………………抑えつけて、自分の思いどおりに動かすこと。

□24リアリティ……………現実。実在。実体。現実味。

□27口承……………………口づてに語り継ぐことこと。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　傍線部①とはどのようなものだと筆者は述べているか。二〇字以内で答えよ。（7点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問２　傍線部②とはどのような問題か、｢アイヌ語｣という語句を用いて、三五字以内で説明せよ。（7点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　傍線部③の指示内容を一〇字以内で答えよ。（7点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　本文中の空欄に入る適語を次から選べ。（7点）

ア　創意工夫　　イ　不易流行　　ウ　和魂洋才　　エ　臨機応変　　オ　取捨選択

〔　　　〕

問５　傍線部④とあるが、筆者は、言葉とはどういうものだと考えているか。二〇字以内で説明せよ。（7点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　最後の段落の文にはⅠ〜Ⅳの文番号を付けている。その文関係を説明したものとして、最も適当なものを次から選べ。【読みのセオリー】（7点）

ア　Ⅰ〜Ⅲ文で説明し、Ⅳ文でまとめている。

イ　Ⅰ文を、Ⅲ・Ⅳ文でくわしく説明している。

ウ　Ⅱ文の問いに対し、Ⅰ・Ⅲ文で答えている。

エ　Ⅰ文とⅣ文は、同じことを述べている。

オ　Ⅰ〜Ⅳ文まで、時間の順序で説明している。

〔　　　〕

問７　筆者の主張と合致するものを、次から一つ選べ。（8点）

ア　我々は言葉というものを、単語や語彙そして文字で理解しているが、言葉は本来、それらが相互に溶け込んだ声から成り立っている。

イ　無文字時代の声というのは、発声する力のことであり、力の強弱の具合によって、母音があったり子音があったりという構造を持っている。

ウ　無文字時代の表現は、声が非常に突出したものとしてあり、身振り・手振りなどはそれに付随したものと考えなくてはならない。

エ　金田一京助がアイヌの集落に入り込み、アイヌの言葉を聞き取り、書き留めたことで、現在話されているアイヌ語が成立した。

オ　もともとアイヌの言葉はどこで切ったらいいか分からないものであったが、文字を持つ側が自分たちの言葉のようなものときめつけて、今のアイヌ語が成立した。

〔　　　〕

【解答】

漢字　ａ得体　ｂ制御　ｃ伴（って）　ｄ権威　ｅ定着

問１　声と体の動きが一体に溶け合っているもの。（20字）

問２　アイヌ語を、文字に根拠づけられた音節単位でつかまえようとする問題。（33字）

問３　書き留められた言葉（9字）

問４　オ

問５　言葉は、書くことを通じて作られるもの。（19字）

問６　イ

問７　オ

【読みのセオリー】

★文・段落関係を読む

　文や段落の関係を読み取る場合、以下の基準に照らし合わせて考えてみよう。

Ⅰ　対等な関係

相互に独立し、対等である関係。この場合は、どちらか一つに、まとめることはできない。

Ⅱ　対等でない関係

Ａ　一方が他方の詳しい説明や例になっている関係。

Ｂ　一方が他方の理由（原因・前提など）になっている関係。

【現代文読解用語200】

問　次の言葉の意味をそれぞれ後から選べ。

106（　　）

107（　　）

108（　　）

109（　　）

110首肯（　　）

111陳腐（　　）

112（　　）

113（　　）

114恣意（　　）

ア　カテゴリー

イ　冗談・洒落

ウ　不和

エ　自負・プライド

オ　賛成

カ　自分勝手

キ　自由自在

ク　平凡

ケ　アンニュイ

【解答】

106ウ　107イ　108ア　109エ　110オ　111ク　112ケ　113キ　114カ

〔要　約〕

《段落相互の関係》

［１］…無文字の言葉の問題を提示

［２］・［３］…例をあげての説明（省略）

［４］…無文字時代の言葉を説明

［５］…口承文学とは

［６］…まとめ

　　　　↓

　無文字の言葉は、文字ができてからの言葉とは全く違ったものであり、声や身振りなどを合わせたものとしてあった。口承文学は、書くことを通じて作られ、書くことが新しい語彙を整理し新たに生みだしていった。

（97字）

〈筆者＆出典〉石川九楊（いしかわ・きゅうよう）一九四五（昭和20）年福井県生まれ。書家・書道史家。京都大学法学部卒業。京都精華大学教授・同大学表現研究機構文字文明研究所所長。主な著書に、『書の』『日本書史』（毎日出版文化賞）『近代書史』（次郎賞）『九楊先生の文字学入門』などがある。本文は、『万葉仮名で読む「万葉集」』（岩波書店、二〇一一年）より。

☆「セオラム　補充問題」問題は次の３種類があります。

　＊差し替え　　　……　当該の問と差し替えるもの

　＊追加　　　　　……　同じ問いで追加された問題

　＊新問　　　　　……　追加が可能な新たな問題

＊新問

問　空欄Ａ〜Ｄに入る最も適当な語句を、それぞれ次から選べ。

　ア　したがって　　イ　あるいは　　ウ　もし　　エ　結局　　オ　例えば

［答］　Ａ＝イ（5行目）　Ｂ＝オ（7行目）　Ｃ＝ア（13行目）　Ｄ＝エ（15行目）

＊新問

問　19行目「無文字の言葉や歌謡というものがあるにせよ、パッと聞いてパッと写し取れるようなものではない」とあるが、なぜ「パッと聞いてパッと写し取れるようなものではない」のか説明せよ。

［答］　無文字の言葉や歌謡は、ある種の動作や声のイントネーションと一体のものであるから。

■要約の方法　★段落関係をつかむ

《本文を［１］〜［６］の形式段落で考える》

［１］　無文字の言葉は文字ができてからの言葉とは、全く違うものだ。

［２］　［１］段落の内容を例をあげて説明。

［３］　［１］段落の内容を例をあげて説明。

［４］　無文字時代の表現は、声だけでなく、身振りなども合わせて成立していた。

［５］　口承文学は、書くことを通じて作られたものであり、言葉はそういうものである。

［６］　書くことで新しい語彙が整理されまた新たに生まれてくる。

　　　　　↓

《段落相互の関係》

［１］で無文字時代の言葉の問題を提示し、［２］・［３］で例をあげて説明し、［４］で無文字時代の言葉を説明し、［５］でそこから純粋の口承文学は存在しないことを述べ、［６］で書くことを通して言葉が生み出されていくとまとめている。

■本文の要約■

無文字の言葉は、文字ができてからの言葉とは全く違ったものであり、声や身振りなどを合わせたものとしてあった。口承文学は、書くことを通じて作られ、書くことが新しい語彙を整理し新たに生み出していった。（97字）